

基 調 講 演

テーマ： 「木造住宅の地震被害と耐震性能」

講 師： 鳥取環境大学環境デザイン学科

教 授 北 原 昭 男

京都大学博士（工学）



<略歴>

昭和57年3月 京都大学工学部建築学科 卒業
昭和59年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻 修了
昭和59年4月 鹿島建設技術研究所研究員
昭和62年4月 京都大学防災研究所 助手
平成13年4月 鳥取環境大学環境デザイン学科 助教授（～平成17年3月）
平成15年4月 秋田県立大学木材高度加工研究所客員助教授 兼任（～平成17年3月）
平成17年4月 鳥取環境大学環境デザイン学科 教授

<研究業績 - 近年の研究テーマ - >

1. 建築構造物の地震被害調査に基づく振動特性・耐震性能の評価
1995年兵庫県南部地震による建物被害発生要因の分析
3次元地震動の作用する多層立体鋼骨組の動的挙動に関する研究
2. 木造建物の耐震性能評価
静的加力実験による実大木造建物の耐震性評価
伝統木造軸組・在来工法木造軸組の実大振動実験と構造力学的解明
2000年鳥取県西部地震における木造建物の構造特性と被害
3. 室内における地震被害軽減
3次元地震動の作用する家具の振動性状に関する研究
室内被害の特性とその生活への影響

<講演概要>

阪神淡路大震災や鳥取県西部地震などの近年の地震によって、木造建物にはさまざまな被害が発生してきた。このような地震国日本において、木造建物を創り、かつ、受け継いでいくためには、地震被害の様相を理解した上で、継続的に建物の耐震性向上に取り組んでいくことが必要不可欠である。本講演では、既往の木造建物の地震被害の特徴、および、耐震性評価・向上のための実験的・分析的な取り組みについて解説する。

（内容）

- 1) 阪神淡路大震災における在来軸組構法建物の地震被害特性
- 2) 鳥取県西部地震における伝統的構法による木造建物の被害特性
- 3) 木造建物に関する耐震性評価の現状
- 4) 静的水平力載荷実験による木造軸組の耐震性能評価